

【議案1】

ESD-J 2018 事業報告

<2018年4月1日～2019年3月31日>

I. 概要

2018年度は、2017年度に設置された全国8か所の地方ESD活動支援センターと全国センターが全面的に連携・協働し、地域ESD推進拠点登録数を飛躍的に拡大するなど、ESD活動支援センター事業が軌道に乗ってきた。そして、ESD-Jがこれまで構築してきた全国のネットワークを活かし、ESD推進ネットワークの見える化・つなぐ化を進めている。ESD-JはESD活動支援センターを通じたESD推進ネットワーク構築を通じて、SDGs推進に向けたESDの取り組みはもちろん、持続可能な社会の担い手を育てるESD本来の活動に注力してきた。

社会の動向としては、日本国内外、ステークホルダーを問わずSDGsへの取り組みが急速に広がってきた。ESDはSDGsのエンジンとして位置づけられており、ユネスコスクールなどを中心に学校教育においても「ESD for SDGs」の取り組みが始まりつつある。しかし、残念ながら、日本国内においてはESDとSDGsの関係が明確に理解されておらず、両者の関係を見える化し、「ESD for SDGs」の定着と推進が求められている。

こうした国内外の動向を踏まえ、ESD-Jは「マルチステークホルダー(MSH)型の市民組織」としての特性を活かし、ESDをけん引してきた多様な分野のNGOや先進的組織、持続可能な社会を目指す地方自治体や行政機関、企業、学校、国際機関などが縦横につながり、オールジャパンでESDが推進される姿を目指し、以下の事業に取り組んだ。

1. ESD活動支援センター事業
2. 市民を中心としたESD-J独自の事業
3. 国際事業・アジアにおけるネットワークの再構築
4. 事務局体制整備及び基盤強化
5. その他事業

新事務局長を迎えるなど事務局の運営体制の強化に努めたが、残念ながら安定化には至らず、2～5の事業において期待された成果を挙げることは困難であった。

II. 事業活動

1. ESD活動支援センター事業

(1) 業務の概要

2018年度は、ESD推進ネットワークの推進に向けて着実な進展が得られた。2017年7月～9月にかけて全国で8か所の地方ESD活動支援センター(地方センター)が開設され、同年11月からは、地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)の登録が始められた。2017年度末には27団体であった地域ESD拠点は、2019年2月末現在72団体に増加し、活発な活動が展開されつつある。

【議案1】

地方センターが中心になり、地域 ESD 拠点の支援等の地域レベルでの ESD の推進を図っており、全国センターは、地方センターと緊密な連携をとりつつ、地域 ESD 拠点に対するアンケート調査、全国規模の協力組織・団体に対する調査等を始めとするネットワークの可視化に関する検討、全国規模の学び合いの場である ESD 推進ネットワーク全国フォーラム（全国フォーラム）の開催などの活動を行った。

全国センター及び一部の地方センターのウェブサイトの管理を行い、ESD 関連情報の速やかな発信に努めるとともに、Facebook、Twitter を活用した情報発信を積極的に活用することにより、情報発信の強化を図った。

（2）2018 年度事業計画で重点とした事項

2018 年度事業計画で重点とした 3 つの事項については、以下のとおりである。

1) 地方センターとの連携・協力体制の強化

3 回の ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会、ウェブサイトの活用、後援名義使用や地域 ESD 拠点の登録、相談対応や好事例の共有等を通じ、地方センターとの連携の推進に努めた。特に、地方センター主催の学び合いフォーラムや地方センターの企画運営委員会への参加等を通じてそれぞれの地方センターとのコミュニケーションの強化に努めた。

2) ESD 推進ネットワーク形成のための全国レベルの組織・団体等との協力関係の強化

2016 年度の調査では 11 団体が対象であった全国規模の協力組織・団体が、2017 年度には 27 団体に増加し、それらの活動する分野も大幅に拡大し、SDGs のほぼ全てのゴールを網羅するようになった。2018 年度には、さらに日本生活科・総合的学習教育学会等の学会、日本生活協働組合連合会等の NGO・NPO・公益法人、朝日新聞社等のメディアにも協力組織・団体を拡大しつつある。

3) 国際分野の活動の強化

ESD に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）の後継枠組みの国際的な検討に関する情報を発信するとともに、海外在住の日本人により海外 ESD 事情を報告する海外通信員レポートを開始した。また、海外の ESD 関係者による講演（国際セミナー）を企画した。

2018 年度活動の詳細については、別添資料 1-2を参照のこと。

2. 市民を中心とした ESD-J 独自の事業

（1）ESD コーディネーター研修の企画・運営

岡山地域「持続可能な開発のための教育」推進協議会（略称、岡山 ESD 推進協議会）の委託を受け、岡山市市民協働局 ESD 推進課が事務局を担い、2018 年 9 月 7 日～2019 年 3 月 15 日に実施した。本業務は、中国地方担当理事である池田満之が ESD コーディネーター研修ならびに現場実務を担当した。

本業務は、「岡山 ESD プロジェクト 2015-2019 基本構想」の重点取組分野に掲げている「人材育成」の一環として、「ESD コーディネーター研修」を企画・実施し、ESD コーディネーターとして必要な考え方やスキルを身につけた人材を育成するものである。実施にあたっては、岡山地域の人材を活用することで、研修のノウハウを岡山地域に蓄積できるよ

【議案1】

う工夫した。4年目の2018年度は、「実践事例から学ぶESD企画書の作り方」をテーマとし、実践事例として福祉関係を取りあげた。受講生は約20名で、岡山市勤労者福祉センターを会場に行った。主な内容は、以下の通り。

■ 第1回集合研修…平成30年11月22日（木）9：30～17：00

〔内容〕

①企画概要のわちあい、②事例から学ぶESD・SDGs、③企画のタネを整理する等

■ 第2回集合研修…平成30年12月6日（木）9：30～17：00

〔内容〕

①企画のタネのわちあい、②企画書づくりに必要な知識の整理、③企画書づくり等

■ 個別相談会…平成30年12月14日（木）10：00～17：00（17、18、21日にも追加実施）

〔内容〕企画書についての個別相談（一人当たり1時間の割り振りで実施）

■ 第3回集合研修…平成31年1月17日（木）9：30～17：00

〔内容〕

①企画書の発表とフィードバック、②ワンポイントレクチャー、③Q&A、ふりかえり、④終了認定証の授与等

成果物として、本研修により17の企画書ができた。本研修では、3日間の集合研修と、個別相談会を行ったが、特に個別相談会は充実した成果物の作成、一人一人のスキルアップに大きく役立っていた。

今後に向けて：

2019年度はこの研修も5か年目になる。SDGsを意識しながら、ESDの手法を用いて協働で企画をつくることで、様々なつながりをコーディネートできる視点を持つ人を育てるような研修にしたい。また、2015～2018年度のESDコーディネーター研修受講者が経験を共有する時間を設けるなど、以前の受講者の経験を活かすよう研修プログラムに工夫したい。参加者同士の学び合いを促進し、分野やセクター超えたネットワーク強化につながる研修としたい。事業予算とも関わることなので、やれることには限度や制約があるが、できる範囲でより成果のあがる研修になるように、ESD-Jとしても継続して取り組んでいきたい。

（2）2019年度SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業

文部科学省による2019年度SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業に以下の内容で応募し、300万円の交付決定を受けた。

■ 補助事業名称

「SDGsの視点から企業と連携したPBLを行うことによる地域の担い手を育てる教育」

■ 事業の概要

過疎高齢化が進む日本の地域社会の典型として、漁業が低迷し人口の減少に悩む北海道羅臼町を取り上げ、知床の自然環境や歴史、文化と現在の課題を、幼小中高を貫く教育課程「知床学」を地元企業・主体と連携してPBLとして開発・実施することにより、地域に愛着を持ちSDGs達成の担い手を育てる全国モデルを開発する。

【議案1】

- (3) 会員の声・地域の声 **ESD 活動支援センターの機能構築に反映させる事業**
ESD カフェについては、計画通り 2 度開催した。

3. 国際事業・アジアにおけるネットワークの再構築

2018 年度においては、国際分野においては以下の活動を行った。

(1) 海外への日本の ESD の紹介と共同事業の検討

1) ギリシア・エーゲ大学

ギリシア・エーゲ大学一行の日本の ESD を学ぶツアーにおいて、ESD の事例を紹介した。同大学は ESD をテーマとした日本との共同プロジェクトの構築を望んでおり、その可能性について検討することになった。

2) 台湾・観樹教育基金会 (財団)

日本と共通の少子高齢化・過疎化の問題を抱えている台湾において、日本の ESD による地方創生を紹介する過程で日本との実践交流の要望を受け、今後検討することになった。

(2) アジアの ESD に関する NGO ネットワーク (Asian NGO Network on ESD: ANNE)

・ネットワークの再編に関する検討を進めたが、2018 年度には具体的な活動は行われていない。

4. 事務局体制整備及び基盤強化

(1) 効果検証に基づく情報発信の強化

・WEB 解析ツール「Google Analytics¹」を利用し、2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日までのサイトを訪れるセッション数²やユーザー数³、ページビュー数⁴、流入経路等の分析を実施した。

セッション数は前年比 3,345 回増加 (前年 8,908 回) の 12,253 回であり、うち 81% は新規セッションであった。また参照元割合は、Google39%、yahoo19%、Facebook3%、bing3%、partner2%、その他 25% であり、Google からの検索ツールの利用が多いことが分かった。次にユーザー数は前年比 3,705 ユーザー増加 (前年 6,329) の 10,034 ユーザーであり、うち新規は 9,945 ユーザーであった。なお、ページビュー数は前年比 3,327PV 増加 (前年 50,320PV) の 53,647PV であり、ページビュー平均は、4.7PV であった。以上の分析により、各項目の数値が前年と比べ増加していることと、特に新規の訪問者数の増加から、コンスタントな情報発信と SNS ツールの活用には効果があることが分かった。

※前年数値は、2017 年 8 月 31 日から Google Analytics を導入したため、2017 年 9 月から 7 か月分の平均値を、12 か月分に算出した数値とした。

・会員からのイベント情報や ESD 関連の情報提供などを Facebook ページに掲載を行い、

¹ Google が無料で提供する Web ページのアクセス解析サービス

² 延べ何回ウェブサイトが訪問されたかを示す数字

³ ユーザー数とは、ある一定期間でそのサイトに訪問した固有のユーザー (ユニークユーザー) の数

⁴ ブラウザにウェブサイト内のページが表示された回数的事を指します。

【議案1】

認知向上を行った。その結果、2019年3月31日時点のフォロワー数は、前年比104人増加（前年1,897人）の2,001人となり、幅広いユーザーに向けた情報発信を実施することが出来た。

5. その他事業

(1) 「グリーンチャレンジデー2018の「環境省ブース」企画・運営

2018年9月29日（土）10:00～16:00、新宿御苑のイギリス風景式庭園の芝生エリアで、環境教育推進室のブースの出展運営等を実施した。2日間実施する予定であったが、台風の接近に伴い2日目は中止となった。

週末の新宿御苑を訪れる親子連れを主なターゲットとした。子供が興味を持つ「生き物」のクラフトを主に提供し、子どもが楽しんで作業している時間を使って、保護者に向けてその「生き物」と関連したエシカル消費等について啓発活動を行った。

普段の生活で目にすることのない野生生物の危機は、実は都会生活者の消費行動と密接にリンクしていることを、認識してもらうことが出来た。クラフトブースは大人気で閉園までにぎわった。アンケート調査をクラフト体験者(保護者)を対象に実施したが、雨で来場者が少なく、また保護者に回答してもらったため子供のみでのクラフト参加者からは回答を得られず、53件の回収にとどまった。クラフト体験者は小学校低学年以下の子どもと保護者のグループが多かった。

Ⅲ. 会議等（事務局）

<総会>

通常総会 2018年6月17日 日能研西日暮里校 2F会議室

<理事会>

第1回理事会 2018年5月29日 電磁的方法による

第2回理事会 2018年6月17日 日能研西日暮里校 2F会議室

第3回理事会 2018年9月22日 日能研西日暮里校 2F会議室

第4回理事会 2019年2月10日 日能研西日暮里校 2F会議室

<理事懇談会、及び理事研修会>

新旧理事懇談会 2018年6月17日 日能研西日暮里校 2F会議室

理事懇談会 2018年8月14日 日能研西日暮里校 2F会議室

理事懇談会 2018年11月3日 日能研西日暮里校 2F会議室

理事研修会 及び 臨時理事懇談会 2018年12月15日 日能研西日暮里校 2F会議室

【議案1】

IV. 会員、理事、事務局等

1. ESD-J 運営体制

<会員>

※()内は2018年3月末の数、昨年度との差異

種 類	会員数	種 類	会員数	種 類	会員数
団体正会員	35 (40) -5	団体準会員	10 (9) +1		
個人正会員	44 (56) -12	個人準会員	49 (60) -11		
賛助会員	6 (5) +1	特別賛助会員	1 (1) ±0	連携交流団体	5 (5) ±0

<役員等>

役 職	氏 名
代表理事	阿部治、重政子
副代表理事	池田満之
理事	池田誠、大塚明、川村研治、小金澤孝昭、下村委津子、新海洋子、鈴木克徳、 小松柊成、大島順子、鳥屋尾健、眞鍋和博
監事	浅見哲、吉岡陸子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉

○役員役割表

役 割	氏 名
代表理事	阿部治、重政子
組織運営理事	阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、川村研治、大塚明、 小金澤孝昭
総務・労務・経理担当理事	重政子、池田満之、大塚明
センター事業担当理事	【センター長】阿部治、【人事労務、経理総括】重政子、 【副センター長】鈴木克徳
ステークホルダー間の連携 担当理事	【学校】大塚明 【国際協力、開発分野】池田誠
地域担当理事	【北海道・東北】池田誠、小金澤孝昭、【関東】川村研治、 鳥屋尾健、【近畿】下村委津子【中国】池田満之 【四国】小松柊成【北陸・東海】新海洋子、 【九州・沖縄】眞鍋和博、大島順子

<事務局>

役 割	氏 名
事務局長	榎野久登 (2018年10月1日～2019年3月31日迄)
事務局スタッフ	後藤尚味、山本香織 (2018年10月31日迄)、武田朋子、 齋藤さおり
ESD 活動支援センタースタッフ	渡辺五月、金沢信幸、志村真美 (アルバイト)

【議案1】

2. 協賛・講演名義の実績

No.	種類	団体名	イベント・企画名
1	後援	公益財団法人 五井平和財団	平成30年度日本/ユネスコパートナーシップ事業「第5回ESD日本ユース・コンファレンスの開催ならびにユース世代のプラットフォーム形成」(開催日:①10/13~14、②2/17)
2	後援	平和のための埼玉の戦争展実行委員会	2018 平和のための埼玉の戦争展(開催日:7/28~30)
3	後援	公益社団法人日本環境教育フォーラム	清里ミーティング2018(開催日:11/16~18)
4	協力	環境人材育成コンソーシアム	環境人づくり企業大賞2018(開催日:9/24~3/29)
5	後援	NPO 法人野外遊び喜び総合研究所	あばれんぼキャンプ体験活動教育アカデミー(開催日:11/3)
6	後援	麹町納税貯蓄組合連合会	納税で持続可能な日本 シンポジウム(開催日:11/1)
7	後援	KURURA 制作実行委員会	未来の伊豆をデザインする子ども達とプロが創るフリーペーパー(開催日:4/1~3/31)
8	後援	立教大学 ESD 研究所	第1回全国 ESD 自治体フォーラム(開催日:11/28)
9	後援	第11回つなぐ人フォーラム開催事務局	第11回つなぐ人フォーラム(開催日:2/15~17)
10	後援	クリエイターチームカラフル	まちがつながるガイドブック・文京マガジンを作ろう(開催日:4/1~3/31)
11	後援	クリエイターチームカラフル	中学生と専門家のコラボレーションによるまちの情報誌の制作活動(開催日:4/1~3/31)
12	後援	エネルギーワークショップ推進委員会	2018年度次世代エネルギーワークショップ(若手社会人編)(開催日:2/1~2)
13	後援	成蹊学園サステナビリティ教育研究センター	成蹊学園サステナビリティ教育研究センターイベント「ESD 成蹊フォーラム2019」(開催日:4/7、第3部ウォーキングツアー:4/21)

3. ESD-J 理事の講師派遣等実績

活動内容	件数	受益者数
講演	19件	2,268
講義	61件	3,522
その他(ワークショップ実施、シンポジウム参加、メンター、視察対応、サミット・シンポジウム等のコーディネート、指導助言等)	21件	1,584
合計	101件	7,374

平成 30 年度 ESD 活動支援センター活動報告概要

- ・平成 30 年度は、ESD 推進ネットワークの推進に向けて着実な進展が得られた。平成 29 年 7 月～9 月にかけて全国で 8 か所の地方 ESD 活動支援センター（地方センター）が開設され、同年 11 月からは、地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）の登録が始められた。平成 29 年度末には 27 団体であった地域 ESD 拠点は、平成 31 年 1 月末現在 67 団体に増加し、活発な活動が展開されつつある。
- ・地方センターが中心になり、地域 ESD 拠点の支援等の地域レベルでの ESD の推進を図っており、全国センターは、地方センターと緊密な連携をとりつつ、地域 ESD 拠点に対するアンケート調査、全国規模の協力組織・団体に対する調査等を始めとするネットワークの可視化に関する検討、全国規模の学び合いの場である ESD 推進ネットワーク全国フォーラム（全国フォーラム）の開催などの活動を行った。
- ・全国センター及び一部の地方センターのウェブサイトの管理を行い、ESD 関連情報の速やかな発信に努めるとともに、Facebook、Twitter を活用した情報発信を積極的に活用することにより、情報発信の強化を図った。
- ・平成 30 年度事業計画で重点とした 3 つの事項については、以下のとおりである。
 - (1) 地方センターとの連携・協力体制の強化
3 回の ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会、ウェブサイトの活用、後援名義使用や地域 ESD 拠点の登録、相談対応や好事例の共有等を通じ、地方センターとの連携の推進に努めた。特に、地方センター主催の学び合いフォーラムや地方センターの企画運営委員会への参加等を通じてそれぞれの地方センターとのコミュニケーションの強化に努めた。
 - (2) ESD 推進ネットワーク形成のための全国レベルの組織・団体等との協力関係の強化
平成 28 年度の調査では 11 団体が対象であった全国規模の協力組織・団体が、平成 29 年度には 27 団体に増加し、それらの活動する分野も大幅に拡大し、SDGs のほぼ全てのゴールを網羅するようになった。平成 30 年度には、さらに日本生活科・総合的学習教育学会等の学会、日本生活協働組合連合会等の NGO・NPO・公益法人、朝日新聞社等のメディアにも協力組織・団体を拡大しつつある。
 - (3) 国際分野の活動の強化
ESD に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）の後継枠組みの国際的な検討に関する情報を発信するとともに、海外在住の日本人により海外 ESD 事情を報告する海外通信員レポートを開始した。また、海外の ESD 関係者による講演（国際セミナー）を企画した。平成 31 年度においては、国際的な情報の受発信を更に強化していく方針。

i 業務の背景と目的

日本の提案により開始された「国連 ESD の 10 年」が 2014 年に終了した後、世界の国々は、ESD の重要性に鑑み 2015 年から ESD の第 2 ステージを開始することとし、2014 年 12 月に「ESD に関するグローバル・アクション・プログラム (GAP)」の世界的な推進に合意した。我が国は、ESD を推進する中核的な国として、世界の ESD をリードしていくことが期待されている。

「国連 ESD の 10 年」後の ESD 推進上の課題として、未だ ESD の取組が一部の地域や主体に限られていることや、優れた実践事例が各主体のネットワークの範囲に留まり、分野を超えた交流が進んでいないこと等が指摘された。このため、我が国は、持続可能な社会の実現に向け、ESD に関わるマルチステークホルダーが、地域における取組を核としつつ、様々なレベルで分野横断的に協働・連携して ESD を推進することを目的として ESD 推進ネットワークを構築することとした。ESD 推進ネットワークは、我が国の ESD の質的向上、量的拡大を図ることにより、持続可能な開発のために求められる原則、価値観、行動が、教育や学び・人づくり・地域づくりのあらゆる場において主流化していくことを目指す。

ESD 推進ネットワークは、地域における ESD 活動の支援窓口となる「地域 ESD 活動推進拠点 (地域 ESD 拠点)」、広域的なハブ機能を果たすため、都道府県の区域を超えた広域ブロックにおける ESD 活動の支援や地域 ESD 拠点と協働・連携した活動等を行う「地方 ESD 活動支援センター (地方センター)」、ESD 推進ネットワークの全国的なハブ機能を果たす「ESD 活動支援センター (全国センター)」等により構成される。

全国センターは、平成 28 年 4 月に文部科学省と環境省が、官民協働の仕組みとしてスタートした。平成 29 年度には、全国 8 ブロックにおいて、7 月から 9 月にかけて地方センターが開設されるとともに、年度後半には地域 ESD 拠点の登録が始められた。また、ESD の推進に関心を持つ全国レベルの組織・団体 (協力団体) との協力関係の構築・強化に努めた。

平成 30 年度においては、2030 年における持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けて、全国センターは地方センター・地域 ESD 拠点と連携して、地域レベル、広域レベル、全国レベルといった重層的なネットワークを形成し、地域における情報共有と学び合い、連携・協働を進め、学校や地域、職場等あらゆる場における ESD の普及、深化に向けた支援に取り組んだ。なお、当面の目標年である平成 31 年度 (2019 年度) に向けた ESD 推進ネットワークのロードマップを表 1 に示す。

【議案1】

<資料 1-2>

表1 ESD推進ネットワーク及びESD活動支援センター（全国・地方）の平成31年度に向けた展望

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
基本的考え方	ネットワークの準備	全国センター立ち上げ	地方センター立ち上げ	地域ESD拠点推進	ネットワーク本格稼働
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークの概念整理(文書) ESD推進ネットワークの構築に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援ネットワークの中期目標合意 ● 支援ネットワークの立ち上げ方針策定 2. ESD活動支援企画運営委員会の設置・開催(文書) ESD推進ネットワークの構築に向けて解説資料(文書) ESD推進ネットワークの目標等(文書) 地域ESD活動推進拠点の登録について(案)	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークの稼働開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ESD拠点の整備推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークのチューニング
全国センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国センター立ち上げ準備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国センター立ち上げ ● 情報インフラの確立 1. ESD活動に関する相談・支援窓口 3. 地方センター設置準備のための意見交換会の開催 4(1) ESD活動支援に係るパンフレットの作成 4(2) ESD活動支援センター公式webサイトの運用等 4(3) 若者世代による情報発信 5(1) ESD活動支援センターオープニング・イベントの開催 5(2) ESD推進ネットワーク全国フォーラムの開催 5(3) 地域ESD活動拠点の形成支援 6. ESDネットワーク形成に係る可視化ツール等の作成	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国センター機能の充実 <input type="checkbox"/> 地方センター立ち上げに向けた連絡調整 <input type="checkbox"/> ESD関係全国組織との連携強化 <input type="checkbox"/> パンフレット改訂 <input type="checkbox"/> ウェブサイト充実、SNS活用促進 <input type="checkbox"/> ユースESDレポーター継続 <input type="checkbox"/> その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国センター機能の一層の充実 <input type="checkbox"/> 地方センター支援、地方センターとの連携強化 <input type="checkbox"/> ESD関係全国組織との連携・協働、地方へのメッセージ <input type="checkbox"/> 地域ESD拠点整備の支援 <input type="checkbox"/> ウェブサイト充実 <input type="checkbox"/> 人材育成、若者戦略等の検討・推進	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークの稼働状況の確認と改善 <input type="checkbox"/> 地方センターと連携してのネットワークのパフォーマンス評価、改善検討 <input type="checkbox"/> 地方センターとの連携強化 <input type="checkbox"/> 地域ESD拠点整備の支援
地方センター		<ul style="list-style-type: none"> ● 地方センター立ち上げ準備 <環境省地方環境事務所> <input type="checkbox"/> 地方センター設立準備委員会	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方センター立ち上げ <input type="checkbox"/> 全国センターとの諸々の調整(連絡会を含む) <input type="checkbox"/> 地域ESD拠点の登録に向けた準備と登録開始	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方センターの機能強化 <input type="checkbox"/> 全国センターとの連携強化に向けた調整(継続) <input type="checkbox"/> 地域ESD拠点の登録、活動推進	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークの稼働状況の確認と改善 <input type="checkbox"/> 地域ESD拠点の登録、活動推進 <input type="checkbox"/> 全国センターと連携してのネットワークのパフォーマンス評価、改善検討

ii 業務の実施体制

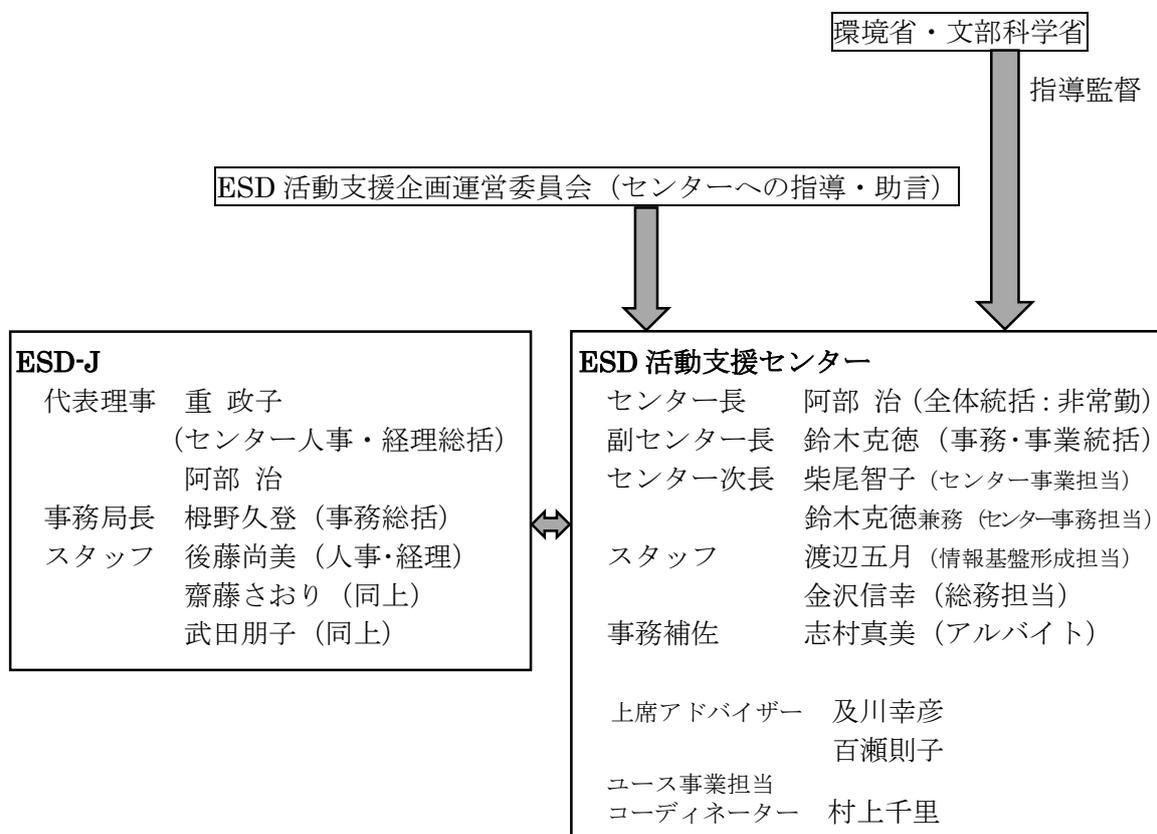
本業務の遂行に当たっては、多様な主体との協働・連携が重要であることに鑑み、アジアにおける ESD 推進やユネスコスクール支援に実績のある公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）と業務提携し、特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）及び ACCU が各々構築してきた各主体とのネットワークを活用し、効果的、効率的に本業務を実施するために共同体制で取り組んだ。

本業務の遂行に当たっては、ESD の実践に有益な情報の収集・提供、ESD に取り組む多様な主体の分野を超えた交流の場の提供、ESD に取り組むための助言・支援ができる拠点の形成などを着実に遂行するための多様な主体とのネットワークの構築が重要である。

- ・ ESD-J は ESD 推進に向けて市民社会を含む多様なステークホルダーが連携して取り組むことを目的に設置された法人であり、これまで政策決定者への提言や市民社会と行政、企業等をつなぐ様々なシンポジウム、フォーラム等を開催してきたことから、NGO、NPO を含む市民社会、行政、企業等とのネットワークを有している。
- ・ ACCU はユネスコの基本方針に沿って、アジア太平洋地域諸国の文化の振興と相互理解に寄与することを目的に設置された法人であり、これまで様々な ESD に関する学校支援事業や国際交流事業などを実施することにより、学校や教育委員会、アジアのユネスコ関連組織とのネットワークを有している。

上記に示すそれぞれの団体の特徴をいかし、本業務の円滑な遂行のため、ESD-J、ACCU それぞれからスタッフを派遣し、以下の実施体制を整えた。なお、本業務の実施に当たっての ESD-J、ACCU 間の調整は、電話やメール等による日常的なコミュニケーションに加え、両団体が出席して原則毎月開催される ESD 活動支援センターミーティングで行っている。

図 1 全国センターの業務の実施体制



(注)

- ・事務補佐の志村は平成 30 年 10 月から勤務 (週 4 日)。
- ・センターの人事及び経理処理事務は ESD-J が実施。

1. ESD 活動に関する相談・支援窓口

■業務内容
地域の ESD 活動実践者・実践団体から、ESD 活動を実施するに当たって相談や支援の要請があった場合、必要に応じて地方センターと連携して適切に対応する。

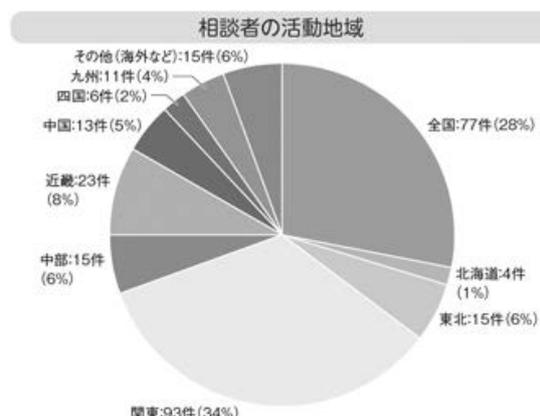
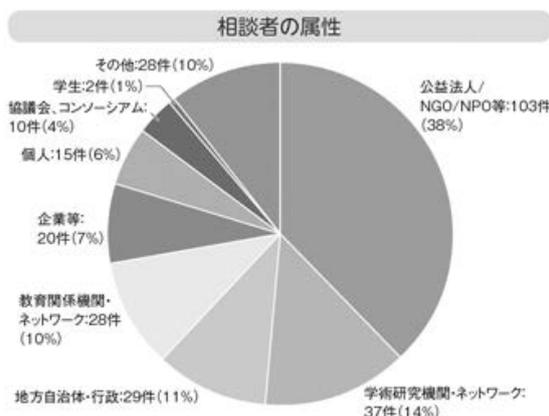
開館日・時間 月曜日から金曜日 10時から18時
(土・日曜日・祝日、12月29日から1月3日は閉館)

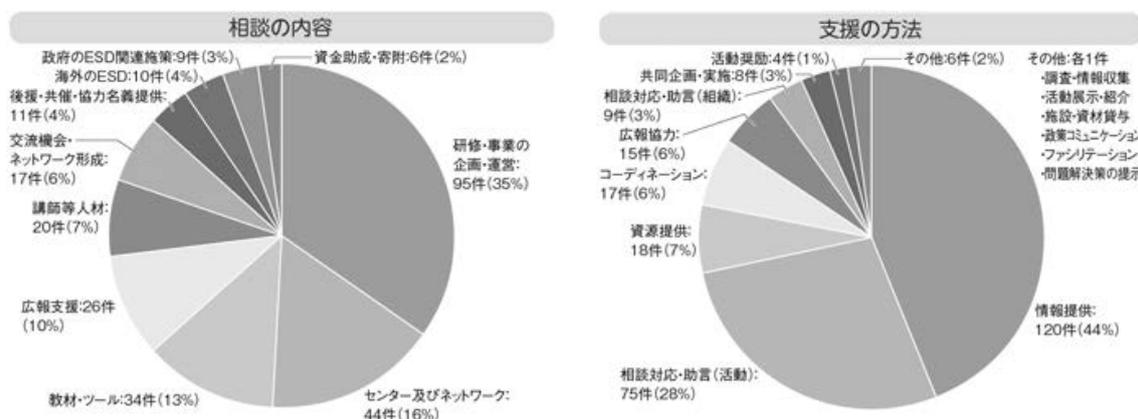
■ESD 推進ネットワークの目標等における本業務の位置づけ
目標 2 支援体制
成果目標③ ESD を推進する多様な主体が参画する官民協働プラットフォームとしての ESD 活動支援センター（全国・地方）の整備が進み、ESD 活動に対する支援体制が整備している。

ESD 活動を実践するに当たっての相談や支援の要請を電話及びメール、訪問等で受け付け、特定地域に関する事項等については、地方センターと情報を共有し、連絡調整しつつ、対応を行った。

【相談件数】 272 件（平成 31 年 2 月末現在）

*別添資料：ESD 活動に関する相談・支援一覧（平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月）





■成果

- ・平成 29 年度は、平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月までの相談件数が 155 件であったのに対し、平成 30 年度は平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月までの相談件数が 272 件と大幅に増加した。これは、平成 30 年度から、より専門性が高い回答ができるよう相談・支援体制を強化したことが一因と考えられる。
- ・相談内容に応じて、地方センターと連携をとることができた。特に関東地方センターとは共同で相談対応に応じるケースも多々あった。
- ・相談、問い合わせに対して、先方の相談ニーズにきめ細かく対応することができた。また、相談対応から、後援名義、広報など、協力・連携につなげることができたケースも多かった。
- ・朝日新聞社からの相談をきっかけにスタートした、朝日新聞社主催「かんきょう新聞」コンテストにおける「ESD 活動支援センター賞」が継続し、3 回目となった。
- ・SDGs に関する相談が、全国・地方ともに増加傾向にあり、関係資料や情報の充実がますます重要になっている。

2. ESD 活動支援企画運営委員会の設置・開催

(1) 企画運営委員会

■業務内容

『持続可能な開発のための教育円卓会議』や省庁連絡会議等の議論を踏まえ、ESD 活動実践者等の支援や ESD の普及・啓発などの方策について、ESD 活動支援企画運営委員会（以下「企画運営委員会」）において検討する。平成 30 年度は企画運営委員会を 2 回開催し、ESD 推進ネットワーク全体の活動の基本的方向を議論するとともに、全国センターの当該年度の事業計画及び事業報告案、翌年度の事業計画案等について、指導・助言等を受けて取りまとめる。

■ESD 推進ネットワークの目標等における本業務の位置づけ

目標 支援体制

成果目標② 企画運営委員会が、総合的な ESD 活動支援方策の検討やその実現に向けた全国センターへの指導・助言を行うための体制が整備されている。

昨年度末で、企画運営委員の任期が切れたため、今年度、新たに以下の 11 名に企画運営委員を委嘱した。(任期 2 年)

齋藤 克義	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 広報室地球ひろば推進課課長 (平成 30 年 9 月より委員。平成 30 年度前半は内藤 徹地球ひろば 推進課前課長が委員。)
佐々木 克敬	宮城県多賀城高等学校校長
佐藤 真久	東京都市大学大学院環境情報学研究科教授
鈴木 佑司 (副委員長)	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長
関 正雄 (委員長)	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR 室シニア・アドバイザー 明治大学経営学部特任教授
高橋 尚也	日本科学未来館科学コミュニケーター
竹内 よし子	特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク代表理事
長澤 恵美子	一般社団法人日本経済団体連合会 SDGs 本部統括主幹
長友 恒人	日本 ESD 学会会長
二村 睦子	日本生活協同組合連合会組織推進本部長
安田 昌則	大牟田市教育委員会教育長

(敬称略、五十音順)

第 1 回 ESD 活動支援企画運営委員会

日時 平成 30 年 7 月 2 日 (月) 15 時 00 分～17 時 00 分

会場 日比谷図書文化館 スタジオプラス (小ホール)

議題

1. ESD 活動支援企画運営委員会の目的と役割について (報告)
2. 平成 29 年度 ESD 活動支援センター事業報告について (報告)
3. ESD 推進ネットワークの方向性について (審議)
 - ・ ESD 推進ネットワークの現状について
 - ・ 地域 ESD 活動推進拠点 (地域 ESD 拠点) の形成推進について
4. 平成 30 年度 ESD 活動支援センター主要事業について (審議)
 - ・ 全国フォーラム 2018 について
 - ・ ネットワーク可視化のタスクフォースについて
5. その他

第 2 回 ESD 活動支援企画運営委員会

日時 平成 31 年 2 月 7 日 (月) 13 時 00 分～15 時 00 分

会場 日本消防会館 第一会議室

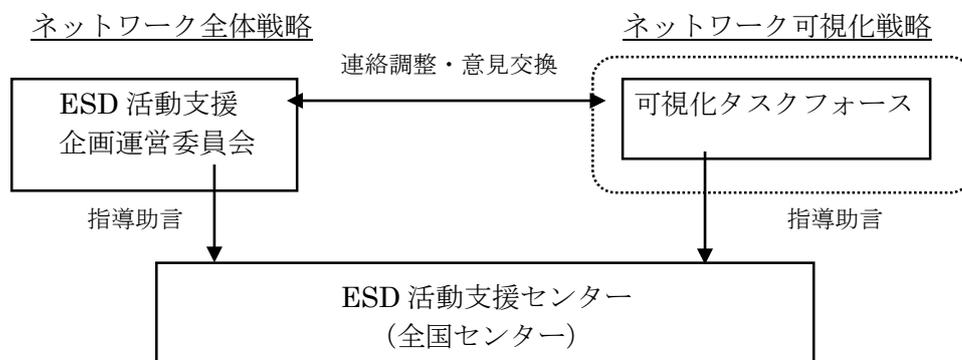
議題

1. 文部科学省・環境省の関連施策及び来年度関連予算 (案) 等について
2. 平成 30 年度 ESD 活動支援センター活動状況概要について
 - (1) 平成 30 年度 ESD 活動支援センター活動状況概要 (報告)

- (2) ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2018 について（報告）
- (3) ESD 推進ネットワークの可視化タスクフォースの活動成果について
- (4) ESD 実践に際しての SDGs の位置づけについて
- 3. 2019 年度 ESD 活動支援センター事業及びポスト GAP の ESD 推進ネットワークのありかたについて
- 4. その他

(2) ESD 推進ネットワーク可視化タスクフォース

①今年度第 1 回企画運営委員会において、企画運営委員会の中に、ESD 推進ネットワークの可視化について検討を行う「ESD 推進ネットワークの可視化に関するタスクフォース」（以下「可視化タスクフォース」）を設置することとした。可視化タスクフォースの位置づけは以下の図に示すとおりである。

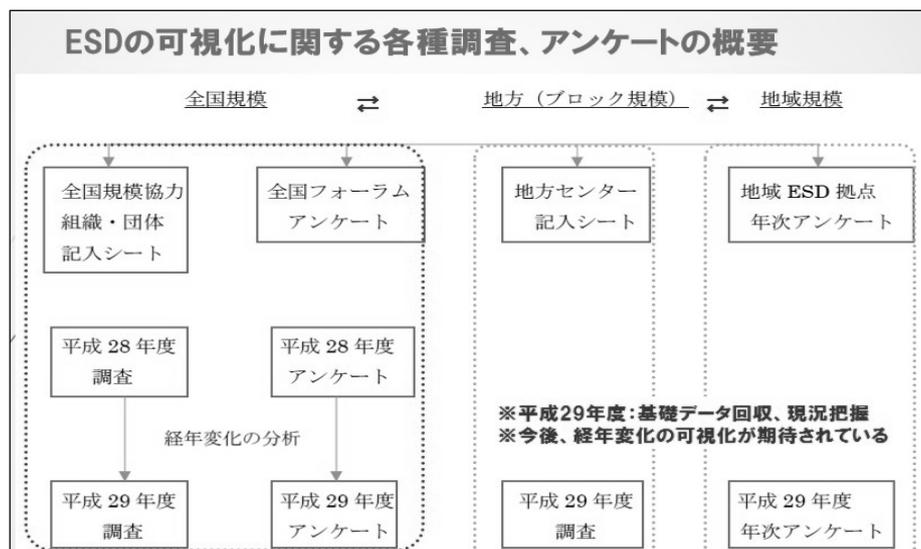


また、以下の方々を可視化タスクフォース委員として委嘱した。

委員		
	久保田 学	公益財団法人北海道環境財団事務局次長
	佐藤 真久 (座長)	東京都市大学大学院環境情報学研究科教授
	島田 幸子	関東地方 ESD 活動支援センター
	渡辺 文	鎌倉女子大学
ESD 活動支援センター職員		
	柴尾 智子	ESD 活動支援センター次長
	鈴木 克徳	ESD 活動支援センター副センター長

(注) 敬称略、カテゴリー内 50 音順

ESD 推進ネットワークの可視化の目的は、ESD 推進ネットワークの経年的な質的変化、量的変化を明らかにすることにより、ESD 推進ネットワーク全体の現況を外部に発信するとともに、事例の掘り下げを通して、関係主体の取組の改善を図ることである。可視化に関する各種の調査やアンケートの概要は以下に示すとおりである。全国規模の調査は 2017 年度から、地方規模の調査は 2018 年度から行われている。



②3 回の可視化タスクフォース会議を開催した。

③可視化タスクフォースの成果物として以下の資料を作成し、第 2 回企画運営委員会で報告した。

- ①ESD 推進ネットワークの可視化について
- ②平成 29 年度地域 ESD 拠点年次アンケート（平成 30 年実施）結果（案）
- ③平成 29 年度地方センター記入シート：地域 ESD 拠点との連携について（地方センター記入シート結果取りまとめ）
- ④平成 29 年度 ESD 推進ネットワーク可視化（全国規模の協力組織・団体）（平成 30 年実施）報告（案）
- ⑤ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2018 参加者アンケート結果
- ⑥-1 地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）年次アンケート（平成 30 年度分）への協力をお願い（案）
- ⑥-2 平成 30 年度地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）についての地方センター取りまとめフォーマット（案）

■成果

企画運営委員会に関し、

- ・第 1 回の企画運営委員会で得られた助言を全国フォーラム 2018 の内容に反映するなど、指導助言を有効に活用することができた。
- ・第 2 回の企画運営委員会では、GAP の後継枠組みの策定を意識した今後の展開について、委員から様々な視点による助言を得ることができた。
- ・可視化タスクフォースの活動を通じて、ESD 推進ネットワークに関する資料をまとめ、第 2 回の企画運営委員会で報告することができた。
- ・今後 2020 年からの GAP 後継枠組みの策定を意識してこれまでの活動の成果の取りまとめや今後の活動に関する提案を検討するに当たって、委員会の限られた時間をより効率的に活用できるよう方法を模索する必要がある。

可視化タスクフォースに関し、

- ・ ESD 推進ネットワークの現状と今後の方向性を検討するための有益な資料が作成された意義は大きい。
- ・ 平成 29 年度データは、ESD 推進ネットワークが動き始めてから間もない時期であるため、ベースラインデータとして活用することが適切との指摘が行われた。今後、経年的な進展を分析することが重要である。
- ・ 平成 29 年度アンケート結果等を精査し、調査事項の改善等の措置が図られた。今後は、改善されたアンケート調査票等がベースになる。

3. ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会

■業務内容

ESD 活動支援センター（全国センター）と地方 ESD 活動支援センター（地方センター）の実務上の連絡調整及び ESD 推進ネットワーク全体に関わる必要事項の ESD 活動支援センター（全国・地方）案を決定する場として開催する。

■ESD 推進ネットワークの目標等における本業務の位置づけ

目標 2 支援体制

成果目標③ ESD を推進する多様な主体が参画する官民協働プラットフォームとしての ESD 活動支援センター（全国・地方）の整備が進み、ESD 活動に対する支援体制が機能している。

以下のとおり 3 回の ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会を開催し、全国フォーラムやその他全国センターの事業に関して意見交換を行い、企画運営委員会に提出する資料の作成に反映した。また、ウェブサイトの更新、後援名義使用承諾、ロゴマーク使用などの実務上の連絡調整を行った。

さらに、体験活動を提供する施設、国際協力、ユネスコエコパーク、ユネスコ世界ジオパーク等の活動について外部ゲストを招き、当該分野の ESD 関連の活動について学ぶとともに今後の連携・協力方策等について情報・意見交換を行った。

■成果

- ・ 全国センターと地方センターが一堂に会して情報の共有や意見交換を行う場であり、極めて重要な役割を果たすため、全ての地方センターが参加できるよう連絡調整を密に行い、事前、事後の資料の共有に努めた。
- ・ 今年度は、単に ESD 活動支援センター（全国・地方）の情報共有や意見交換のみならず、外部の関係者に参加いただき、情報共有をすることができたのが大きな成果である。
- ・ 地域 ESD 拠点の登録が進み、地域における ESD 推進ネットワークの構成団体が明確化されてきたことに伴い、今後、ESD 活動支援センター（全国・地方）の果たすべき役割をより明確化するために、ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会の機会をこれまで以上に活用する必要がある。

4. ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信等

(1) ウェブサイトの運用等

■業務内容

ESD 活動実践者に対し、国内外の ESD 活動に関する情報を収集し発信するとともに、ESD 活動に関するプログラム・資料等を収集し、求めに応じて提供する。

■ESD 推進ネットワークの目標等における本業務の位置づけ

目標 1 情報

成果目標① ESD 活動支援センター(全国・地方)が収集、整理、蓄積、共有する情報が ESD を深めるために(質的向上)、また広めるために(量的拡大)、有用なものになっている。

ウェブサイトについては、平成 27 年度に情報基盤設計等の立ち上げ準備を行い、平成 28 年 4 月 22 日の全国センター開設に合わせて公開した。同年 9 月に SNS (Facebook と Twitter) を開始した。開設以来「仲間を増やすウェブサイト、仲間の力を付けるウェブサイト」として、他のウェブサイトへの有効なポータル(入り口)として機能するコンテンツ作りに努めている。また、SNS 等と連動して情報を一元的に発信し、ESD の魅力を伝える、ESD 関係者を増やすツールを目指している。

今年度、全国センターのウェブサイトを運用するとともに、サーバー、更手順の標準化、アクセス数カウントシステムの運用等、8 つの地方センターウェブサイト運用の基盤を整えるとともに、6 月 4 日(月)までは 5 つ、6 月 5 日(火)以降は 4 つの地方センターウェブサイトを更新を担当している。

8 月には、ESD に関連する催事をカレンダー形式で掲示・公開する「ESD 関連カレンダー」を新設した。また、国連機関や海外の ESD 先進地域の動きなど、ESD に関する国際的な情報を掲載する「海外の動き」を新設した。情報ごとに、「地域」、「実施主体」、「種類」の 3 つのカテゴリーで分類し、閲覧者が情報の絞り込みを行える機能を搭載している。今年度から開始した「海外通信員」による報告もこのコンテンツに掲載している。

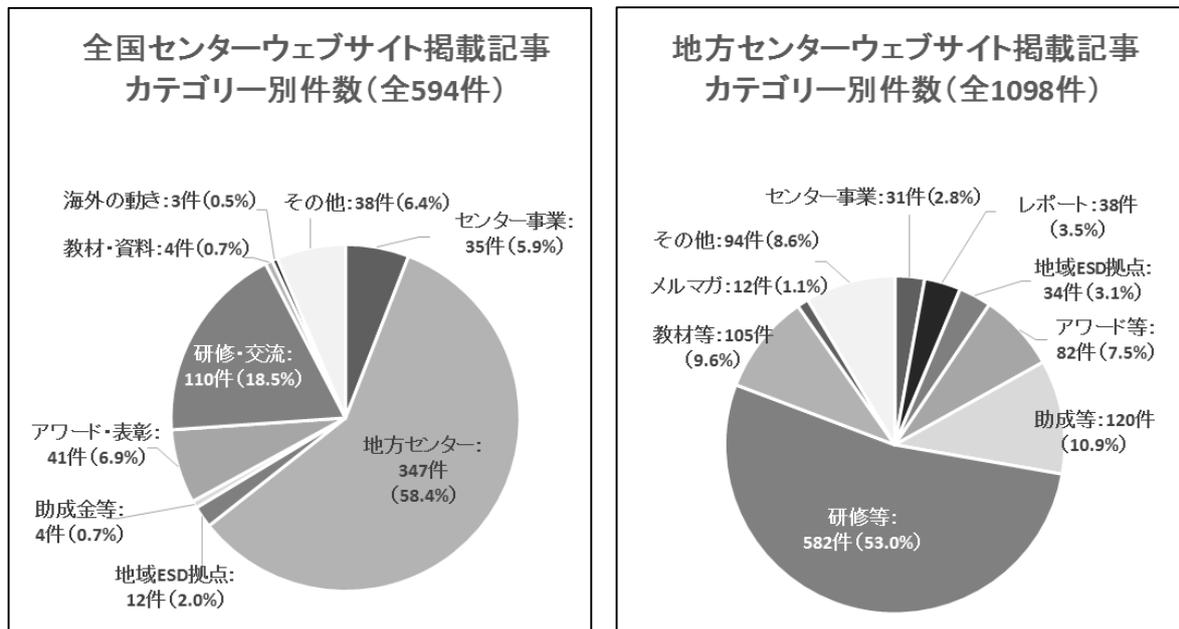
さらに、ICT 運用の時代的变化に対応するため、常時 SSL 認証システムを導入した。

平成 30 年度においては、関係省庁、全国・地方の ESD 実践者や、地方センターの協力を得て、以下のコンテンツで ESD の実践や推進に役立つ情報の収集と発信を行った。

- ・「最新のお知らせ」
- ・「ESD 関連カレンダー」
- ・「私たちについて」(ESD 活動支援センターとは、センター事業、アクセス)
- ・「地方センター」
- ・「地域 ESD 拠点」
- ・「公募情報」(アワード・表彰、研修・交流)
- ・「教材・資料」(ESD とは、公式ドキュメント)
- ・「海外の動き」(平成 31 年 2 月に公開)

また、平成 28 年度に開設した、Facebook、Twitter の運用を継続した。

全国センター・地方センター各ウェブサイト発信件数



全国センターウェブサイト：全 594 件
(平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月末現在)

地方センターウェブサイト：全 459 件 (8 地方センターで合計)
(平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月末現在)

* 資料参照：平成 30 年度_ESD 活動支援センター公式ウェブサイト更新一覧

全国センターウェブサイト アクセス数 (平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月末)

トップページのみ：12,441 件／全てのページ合計：82,505 件

[参考] トップページのみ：11,299 件／
全てのページ合計 45,160 件
(平成 29 年 4 月～平成 30 年 2 月末)

SNS データ (平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月末)

・ Facebook ページ

リーチ数合計：80,927／いいね数：490／フォロワー：548

[参考] いいね数：360／
フォロワー数 386
(平成 30 年 2 月末時点)

・ Twitter

インプレッション合計：96,646／フォロワー数：111

[参考] フォロワー数：65
(平成 30 年 2 月末時点)

(2) ESD 海外通信員

国外在住の日本人 ESD 関係者に、その居住地を中心とした ESD 関連情報の執筆を依頼し、ウェブサイトで公開することを、今年度から開始した。

今年度は、以下の ESD 実践者・研究者、国際機関スタッフ等に原稿執筆を依頼し、調整の上、ウェブサイトに掲載している。

名前・所属	レポートタイトル
野口扶美子さん 【オーストラリア】RMIT 大学 博士後期過程学生	Lentil as Anything - お金とモノの流れ、人と人の関係を変える
池端弘久さん 【シンガポール】日本人学校小学部チャンギ校 校長	探究科基礎と ESD (チャンギ校の挑戦)
浜中真希さん 【フィリピン】マニラ日本人学校 教諭	フィリピンとマニラ日本人学校における ESD の概要
望月要子さん 【インド】ユネスコ MGIEP 政策プログラム長	インド・シッキム州の小学校教科書に ESD を
浅野由子さん 【スウェーデン】ウプサラ市 私立マルマ・バック就学前学校／日本女子大学 学術研究員	スウェーデンにおける幼児期の SD および ESD
山下祐史さん 【エクアドル】多摩市立多摩第一小学校／青年海外協力隊エクアドル派遣	エクアドルにおける環境教育について
塚本直也さん 【タイ】アジア工科大学 (AIT) アジア太平洋地域資源センター センター長	バンコクで思ったこと一頓在化する ESD の必要性
菅原珠美さん 【ドイツ】四国地方 ESD 活動支援センター 非常勤スタッフ (ドイツ在住)	ドイツでの日常生活の中で気付く ESD

■成果

- ・全国センター・地方センターのウェブサイト共に、円滑に管理運営・更新を進めることができた。地方センターの情報更新については、担当者と密接に連携して行った。また、インターネットをめぐる状況変化に対応して、セキュリティ強化のため、全国センター・地方センターのウェブサイト全てに対して常時 SSL 化を行った。
- ・全国センターのウェブサイトについては、情報提供者の増加などにより、昨年よりも多くの情報発信を行っている。
- ・新コンテンツとして、「ESD 関連カレンダー」、「海外の動き」の運用を開始した。「ESD 関連カレンダー」の新設により、関連情報をカレンダー上で検索することが可能になり、利用者に好評である。また、国外の情報を「つなぐ」全国センターの機能を果たすために、「海外の動き」のコンテンツを新設し運用を開始した。
- ・「海外通信員」による報告により、国外在住の ESD 実践者・研究者、国際機関スタッフの視点を通じた海外の ESD 動向を紹介することができた。
- ・全ページアクセス数の合計が、大きく伸びている。また、ウェブサイトと連動して運用している SNS (Facebook 及び Twitter) についても、フォロワー数が増加している。
- ・サーバーの安全性など基盤部分の管理運営とともに、内容の充実強化にも引き続き努めたい。
- ・「ESD 関連カレンダー」の利便性を発信し、より多くの関係者に情報受発信の手段として有効活用を促したい。

5. ESD 推進ネットワークの構築

(1) ESD 推進ネットワーク全国フォーラムの開催

■平成 30 年度における業務項目

①ESD 推進ネットワーク全国フォーラムを 1 回開催（チラシ制作、送付、会場手配、設営、運営等の事務手続き、資料の作成・印刷等、ファシリテーターを含む登壇者の決定、旅費・謝金支給含む）

■ESD 推進ネットワークの目標等における本事業の位置づけ

目標 3. ESD 実践の学び合いを可能とする重層的なネットワークを形成する。

（以下「目標 3. ネットワーク形成・学び合いの場」）

成果目標⑤多様な分野で ESD の認知度が向上し、また理解が進み、多様なステークホルダーの間で経験の共有、ESD 推進の協働・連携の関係性が形成・促進されるような学びの場が持たれている。（以下「成果目標⑤ESD の理解、経験の共有、関係性の形成・促進」）

評価指標 全国フォーラム参加者アンケート

全国フォーラムは、原則的に毎年 1 回、ESD の多様な主体が連携・協働していくために、ネットワークの主たるステークホルダーが一堂に集い、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、ネットワークが成長するための機会として開催していくものである。

- ・平成 30 年度の全国フォーラムは、SDGs を地域で達成していくための人づくりとしての ESD と ESD 推進ネットワークにおいて重要な役割を担う地域 ESD 拠点に焦点を当て、意見交換を行う機会として企画した。
- ・文部科学省、環境省と共に主催し、独立行政法人国立青少年教育推進機構と共催した。独立行政法人国立青少年教育推進機構から、会場の提供、広報協力及び人的協力を得た。また、今回初めて、日本ユネスコ国内委員会からの後援を得た。また、今回から協力団体を記載することとし、32 団体が協力団体となった。
- ・参加者募集はウェブサイトで行うとともに、チラシ（A4、片面カラー片面モノクロ、3000 部）を作成し、主要な ESD 関係者に郵送・配布した上で周知の協力を得た。当日は、全国各地から、ユネスコスクールを含む教育機関、メディア、企業、公益法人、NGO/NPO、地方自治体、個人（学生含む）を含むのべ 369 名（主催団体関係者含む）の参加者を得た。
- ・全国フォーラムの一般プログラムの終了後に、地域 ESD 拠点からの参加者を主たる対象とする地域 ESD 拠点特別セッションを開催した。
（別添「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2018 概要報告」参照）

(2) 地域 ESD 活動推進拠点の強化・形成支援

■平成 30 年度における業務項目

①共催・後援、専門家・職員派遣

②地域 ESD 拠点登録業務

③地域 ESD 拠点への年次アンケート

■ESD 推進ネットワークの目標等における本事業の位置づけ
 目標 2. 支援体制
 成果目標④地域 ESD 拠点の創出、形成、強化が進んでいる。

①共催・後援、専門家・職員派遣

全国各地で開催される ESD 関連催事について、後援名義の承認を行うとともに、広報活動に協力する。地方センター開設以降は、後援名義使用の承認について一元化した手続き方法について地方センターと合意し、全国センターにて、地方センターの後援名義承認についても地方センターとの連携の下に事務手続きを行っている。

②地域 ESD 拠点登録業務

平成 29 年 11 月から、地域 ESD 拠点登録業務を地方センターとの連携の下に開始した。平成 31 年 2 月末時点で登録が完了している地域 ESD 拠点は 72 である。

③地域 ESD 拠点への年次アンケートの作成・送付

可視化タスクフォース及び企画運営委員会の指導助言、地方センターとの意見交換により、平成 30 年度の活動に関する地域 ESD 拠点向け年次アンケートを作成し、地域 ESD 拠点に送付した。

(3) ESD 推進ネットワークの可視化に関する意見交換会

■平成 30 年度における業務項目
 ①ESD 推進ネットワークの可視化に関する意見交換会を 1 回開催（連絡調整、会場手配、事務手続き、資料作成・印刷、旅費・謝金支給含む）
 ■ESD 推進ネットワークの目標等における本事業の位置づけ
 目標 2. 支援体制
 成果目標③センターの整備、支援体制の機能
 評価指標 多様な主体の参画
 達成目標①-2 可視化ツールの開発と改善

平成 29 年度に全国レベルのネットワークの可視化に協力した組織・団体を対象に、以下のとおり報告・意見交換会を開催した。

タイトル 持続可能な社会を担う人づくりに関わる活動の緩やかなつながり

-ESD 推進ネットワーク可視化報告・交流会-

日程 10 月 17 日（水） 13 時 00 分～15 時 00 分

会場 地球環境パートナーシッププラザ セミナースペース

主催 ESD 活動支援センター

プログラム

1. 参加者自己紹介
2. 「可視化」の意義について（佐藤真久座長による講演）
3. 平成 29 年度 ESD 推進ネットワーク可視化（全国を対象に「ESD」を推進する組織・団体対象）（平成 30 年実施）結果報告

4. 報告についての質疑応答
5. 交流セッション

ESD 推進ネットワークの可視化のため協力を得た組織・団体、企画運営委員、ESD 推進ネットワーク可視化タスクフォース検討委員、文部科学省・環境省、地方センター、全国センターから計 32 名の出席があった。

(4) 特定テーマに係る意見交換会・ワークショップの開催

- 平成 30 年度における業務項目
- ①特定テーマに係る意見交換会及びワークショップを 2 回開催（連絡調整、会場手配、事務手続き、資料作成・印刷、旅費・謝金支給含む）
- ESD 推進ネットワークの目標等における本事業の位置づけ
- 目標 3. ネットワーク形成・学び合いの場
- 成果目標⑤ESD の理解、経験の共有、関係性の形成・促進達成目標①-2 可視化ツールの開発と改善

本年度の特定テーマに係る意見交換会・ワークショップは、全国フォーラムでのセッションを踏まえ、「消費者の賢い選択」をテーマとすることとし、第1回、第2回を以下のとおり開催した。

第 1 回

タイトル 消費者教育セミナー
 消費者の賢い選択に向けて私たちができること
 元ユニー株式会社顧問 百瀬則子氏講演会

日時 平成 31 年 2 月 25 日（月）16:00～18:00

場所 成蹊大学 10 号館 2 階大会議室

主催 ESD 活動支援センター

共催 成蹊学園サステナビリティ教育研究センター

第 2 回

タイトル 消費者教育有識者意見交換会
 消費者教育に関する有識者役 10 名による今後の戦略作りに向けたブレイン
 ストーミング会合

日時 平成 31 年 3 月 27 日（水）14:00～16:30

場所 東京ウィメンズプラザ第 1 会議室 A

主催 ESD 活動支援センター

国際セミナーの開催

昨年度に引き続き、国際的な活動の一環として、以下の国際セミナーを開催した。

国際セミナー：アジア太平洋地域の ESD の展開と SDGs 達成にむけての諸課題
 “no one left behind (誰も取り残さない)” 学校と地域の学びのパートナーシップを中心に
 [RMIT 大学（オーストラリア）“ロビー” ゲバラ氏講演会]

日時 平成 31 年 2 月 25 日（月）18:30～20:00
場所 成蹊大学 10 号館 2 階大会議室
主催 ESD 活動支援センター
共催 成蹊学園サステナビリティ教育研究センター
使用言語 原則として英語（適宜、講演概要を日本語にて説明）

■成果

平成 30 年度の全国フォーラムは、おおむね以下のように総括できる。

- ① ESD 推進ネットワークが着実に進展していることが可視化できた。
- ② 特に、登録開始から 1 年という短期間に地域 ESD 拠点が 70 余りまで増えたことは大きな成果。分科会を中心に、地域 ESD 拠点の活動をハイライトできたことは大きな収穫。
- ③ 他方、これを機会に原点に立ち返って、なぜ ESD 推進ネットワークが必要か、地域 ESD 拠点が必要か、再認識することが重要。
- ④ ESD 活動支援センター、地域 ESD 拠点を通じて様々な ESD ステークホルダーの「つながり」を作ることがキー。
- ⑤ 学校教育関係者の一層の参加促進、地域的な濃淡・粗密の解消が今後の課題。
- ⑥ 今後に向けたキーワードとしては、例えば以下の事項が挙げられる。
 - ・地域資源をいかした地域独自のアプローチ
 - ・地域の実情に合った SDGs の構築と推進
 - ・既存のイニシアチブの活用、それらのネットワークを更に進めることが重要。

（例）地域のユネスコ協会／エコパーク、ジオパーク／ESD コンソーシアム、RCE、高等教育機関／青少年自然の家のような社会教育施設／学校、教育委員会

地域 ESD 拠点の強化・形成支援については、おおむね以下のように総括できる。

- ① 後援名義の使用により、ESD 活動支援センター（全国・地方）の認知度を高めることができた。後援名義の使用が全国センターの名称の露出機会を増やす良い機会であることが確認できた。
- ② 地方センターと連携した全国で一元化した当面の手続き方法を確定している。
- ③ 広報協力や職員派遣等を通じて、主催者との連携の強化を進めることができた。
- ④ 平成 31 年度は、地方センターとの連携により、より広範な関連分野の催事に対して、後援名義の使用承認を広げていきたい。

ESD 推進ネットワークの可視化に関する意見交換会に関し、

- ① 調査に応じていただいた協力組織・団体に対して調査結果を報告することにより、それらの組織・団体とのきずなを深めることができた。また、可視化の意義について説明する機会を得られ、協力組織・団体内部における更なる内発的改善に向けた取組を誘発できる機会になったことも大きな意義があると考えられる。
- ② 普段相互に付き合う機会がない協力組織・団体が集うことにより、異分野で活動する組織・団体間のコミュニケーションを促す効果があった。これは、新たな連携・協働に向けた有益なステップになることが期待される。

特定テーマに係る意見交換会・ワークショップに関し、

- ① 選択した「消費者の賢い選択」は、国際的にも 2019 年 3 月に開催された第 4 回国連環境総会（UNEA4）の主要なテーマになるなど極めてタイムリーなテーマであり、今後の展開に向けた有益な示唆が得られた。
- ② 国際セミナーは、大規模なものを企画せずとも、昨年度、今年度のように、世界的な有識者の来日に合わせて開催する、勉強会的なセミナーでも大変有益なものになることが明らかになった。次年度以降も、このような機会があれば、同様のセミナーを開催することが期待される。

6. 年次報告書の作成

平成 30 年度の活動を取りまとめ、「ESD 活動支援センター活動レポート 2018-2019」（A4、36 ページ、カラー、3,000 部）を作成し、ESD 関係者に配布した。